



学校だより 神橋

平成29年8月28日
横浜市立神橋小学校

9月号



RE:スタート

校長 末松 隆一郎

「まだ夏は終わらせない」とばかりに鳴くセミたちの間から、「晩夏の使者」ツクツク法師の声も聞こえてくる頃となりました。長い夏休みも終わり、神橋小学校の校舎に子どもたちの声が元気に響いています。

今年の夏も猛暑・雷雨、そして長雨や日照不足など、風情の域を出た季節の激しさを感じた夏でした。

スポーツ界においては、ロンドン世界陸上での男子4×100mリレーや競歩での日本人選手達の活躍、アジア女子バレー選手権での、5大会ぶりの全日本女子チームの優勝など、熱い戦いを連日繰り広げていました。

神橋小の子どもたちも、神奈川区水泳大会において、出場選手全員が自己ベストを出すという、大変すばらしい戦いを見せてくれました。

暦の上では立秋。暑さも少しずつやわらぎはじめ、朝晩の空気の中に一瞬、遠慮がちに漂う秋の気配も感じられる頃です。

天地始めて肅し(てんち はじめて さむし)

夏の暑さがようやくおさまり始める8月下旬から9月の始めは、二十四節気「処暑」の中で、夏の気が落ち着き、万物があらたまる時期ともされています。季節の変化の始まりとともに、気持ちも新たにという意味だと私は解釈してみました。そして、その解釈から、今日から始まる神橋小学校の「RE:スタート」を、次のように考えてみました。

RE:スタート

単に学校が再開され、もとの生活に戻るといった意味ではない。季節が寒さへと対極の変化をし始め、空気が入れ替わるこの時期を利用して、これまでの自分が立てためあてや目標などを点検・反省、そして必要に応じて修正し、ゴールに向かっての気持ちを入れ直し、あらためて走り出すこと。

季節が過ぎやすくなる9月以降は、運動会や「学びのひろば」をはじめ、学校・学年、そして学級やたてわり班などでの行事や活動が予定されています。よりよい自分を目指して、仲間と力を合わせ、新しい気持ちをもって残暑を蹴散らし、新しい空気に包まれ、新しい風に乗って、子どもたち、そして教職員も、スタートダッシュをしっかりと切り、全力で走っていきたいと思います。

